

教育民生常任委員会 行政視察報告

(委員長 菊池 巳喜男)

●日程
平成24年10月30日～11月1日

【視察研修先】

北海道福島町
渡島廃棄物処理広域連合
北海道電力伊達発電所
北海道伊達市

◆リレーポート渡島西部 (ゴミの中継施設)の取 り組み

福島町では、渡島半島南西部の1市9町で構成される渡島廃棄物処理広域連合の中で、「ゴミ中継施設の「リレーポート渡島西部」を視察した。この施設は、平成14年度に施設完成、供用開始し10年目を経過したが、施設は衛生的で悪臭も感じられず環境保全に配慮した施設であった。

当市も、清養園クリーンセンター内に、ゴミ中継施設を整備する計画となっていることから、中継基地と

して既に整備運営している「リレーポート渡島西部」を視察地とした。広域で最も問題になるのは、公平な負担であるが、人口割りでゴミ量でもない、全く公平な負担方式により運営されていることは、注目に値する。しかも、リレーポートの設置場所は、地理的にも公平なところに作ったという。

◆北海道電力伊達発電所の ソーラー発電施設の取り 組み

伊達市内に建設、昨年6月から運転開始された北海道電力伊達ソーラー発電所を視察した。3haの広大な敷地に、7,200㎡の太陽光モジュールが設置され、1日に一般家庭約300軒分の電力を生み出すという。この施設は震災以降、新エネ

ルギーとして注目され、無尽蔵でクリーンな発電、環



境負荷もゼロに等しい事で、今後、蓄電池との組み合わせにより、安定した電力供給が期待されるとの説明であった。遠野市でも安心安全なエネルギーの導入が、一刻も早く待たれる。

◆伊達市の市立保育所の民 営化の取り組み

最後は、伊達市の市立保育所の民営化取り組みを視察した。主な経緯は、少子

化の進行・景気低迷・女性就労機会の増加などの社会情勢の変化を背景に、保育を取り巻く環境が変化し、各種保育需要が増加、質的向上等保育に関するニーズが多様化したことから民営化に至ったとのことであった。市民のニーズは、比較的私立志向が強い傾向にあるためか、民営化はスムーズに行われたとのこと。当市の状況とは一概に比較できないと感じられた。

